「民主的」

2016 年 1 月 16 日(土)
会場：カフェクルー
参加：12 名
司会・文責：野田

1. 概要：
・民主的であるとはどういうことか、民主的と正義が両立するための条件について議論しました。

2. 開始直後時点での、民主主義とは何かについて参加者が考えていること
・ みんなで決めること。
・ 選挙権がみんなにあること。
・ ギリシャの直接民主制、政治をみんなで決めた。
・ 政治学の定義では、治者と被治者が同一であること。
・ 選挙で選ばれた政治家が政治を行う。

3. 民主的について
・ 民主的の反対語は何か、専制、独裁。
・ 多数決は民主的か。
・ 民主的とは、みんなで話し合って決めること、ということは正しいか。
・ 民主的に進めても、不幸や失敗をもたらすこともあるのでは。
・ 民主的に進めると、皆が喜ぶ方向に行く。喜ぶ方向に進んでも、結果としてまずいことになることもあるのでは。
・ みなが参加すれば民主的か。
・ 絶大な支持を受ける指導者が率いていれば民主的か。あるいは、皆が決定に参加することが必要か。
・ 意見を表明する機会が平等にあることが民主的である。
・ 自分に利害が発生するような案件に関して、決定に参加できることが前提である。
・ 自分に関係のないことに意見を表明するのは民主的でない。（注：無責任に、という意味に見えました。）
・ 話し合うプロセスがあり、話し合う自由があることが民主的である。
・ 話し合いの中で、自分の意見が変化し、より良い意見、同じ意見に達することが民主的である。
・ 自由と平等に関係がある。
・ 集団よりも個人に重きをおいた考え方である。
・ 情報が公開されていることが重要である。
・ 他者の利害を考慮することが重要である。
・ 失敗を繰り返しながら、正義に近づいていく方法である。民主的に決定したとしてもすぐには正義に到達しない。
・ 正しい方向に是正する運動であるためには、正義に対する考え方をみなが共有することが必要。少数派も多数派も共通の価値観を持つことが前提。少数派から、多数派に、多数派から少数派に立場を変えても納得できること。多数派が少数派の立場を考えることが必要。少数派は多数派を説得することで意見を変える。

4. まとめ：
・民主主義に関する基本的な考えの確認から初めて、民主的に正義が実現する可能性について考えました。「民主的」の理念について少し、プロセスについてはより深く考えました。なお、立場を変えても納得できるという考え方は、法哲学における正義論では「反転可能性」といい、制度の正統性を論じる上で重要な概念だそうです。会の後に知りました。法哲学は一見とっつきにくいですが、二時間という短い時間での議論で出た意見と同様の概念があるので、勉強してみると意外と身近に感じられるかもしれません。

以上